

2024年1月26日取材

群馬県

産地レポート

ハクサイ

「黄づつみ90」

根こぶに強く耐寒性も良好
より安定した出荷が可能に
群馬県JA邑楽館林での評価

(編集部)



↑左からJA邑楽館林西邑楽野菜集荷センター管内長柄地区の中村浩之さんとJA邑楽館林園芸部園芸指導課 園芸指導係の岡島史弥さん。1月から出荷されるものは、結束され葉がしまったハクサイに。



↑平成13年より「邑美人」のブランド名で出荷。

ブランドはくさい
「邑美人」について

「黄づつみ90」は根こぶ病に強く、かつ形状が安定した在圃性にすぐれる中晩生ハクサイとして育成されました。今回、ブランドはくさい「邑美人」の産地である群馬県のJA邑楽館林西邑楽野菜集荷センターで、販売担当の本間拓也さん、園芸指導係の岡島史弥さん、生産者の中村浩之さんに評価をお聞きしました。



地域概況

JA 邑楽館林管内は、群馬県の東南端に位置し、館林市・板倉町・明和町・千代田町・大泉町・邑楽町の1市5町の行政で構成されています。茨城県、栃木県、埼玉県と隣接する標高10～30mの平坦地で、利根川、渡良瀬川にはさまれ、水が豊富で肥沃な農地が広がり、かつ日照時間に恵まれているので多くの農作物が栽培されています。取り扱っている約40品目の青果物のうちキュウリ、ニガウリ、ハクサイなどは県内屈指の生産量を誇っています。

しました。

群馬県の邑楽館林地区は関東平野のほぼ真ん中に位置します。当地から11月～3月に出荷するハクサイは「邑美人」というブランドで絶大な人気を博しています。「邑美人」には西邑楽白菜部会の生産者と農協の「良質なハクサイを安定して出荷したい」との思いが込められており、出荷後の12項目にもおよぶ厳密な検査がその裏付けとなっています。部会員70名で栽培面積は65ha、1月中旬～2月中旬に出荷のピークを迎えます。

「邑美人」の栽培概要

JAでは、安定して良質なハクサイを出荷するため、推奨品種を定めています。また、品種の能力を十分発揮できるよう、播種、定植日、出荷期間などを農家、農協、普及所で設定しますが、新しい品種はメーカーの意見も参考とします。現在、1月出荷からの主

→
中村浩之さんの圃場では「黄づつみ90」が整然と並ぶ。200穴セルトレイを使って育苗。条間70cm、株間39cm、9月20～21日に定植、2月上旬収穫予定。平箱で10a当たり800ケース出荷が目標。



↑平箱13kg 3～4玉、深箱15kg 6～8玉。上に載っているハクサイは試し割り用。出荷中の圃場からサンプルを持ってくる。



←
「黄づつみ90」は生理障害の発生がなく寒さの傷みが少なく芯の伸びもゆるやかだった。



↑「黄づつみ90」は暖冬でも過剰に生育しないため安定した長筒形状で箱詰めがしやすい。

力品種は「さらぼし90」で育苗は2週間程度、9月24～27日定植、出荷は2月中旬ごろまでを推奨しています。また、病気、害虫などの発生状況もいち早く農家に伝達できるように心掛けています。育苗は機械定植が普及していることもあり、200穴のセルトレイを使用します。播種後、発芽までは遮光を行います。露地での育苗が基本で徒長しないよう細心の注意を払います。また、近年はべと病の発生が多く、育苗時から防除は徹底して行います。栽植本数の目安は株間40cm程度、条間は65～70cm、10a当たり3300～4000株。元肥は土壌診断により決定し、追肥は様子を見て1～2回、1回に付きチッソ成分で2～3kg程度です。年明け出荷のものは必ず12月上旬から頭部を結束します。近年は暖冬傾向で遅くまでアブラムシ、ハクサイ

- ③ 過肥大による芯の空洞症や、生理障害が少ない。また、寒さによる葉の傷みや腐敗、葉柄の褐変などにも強い。芯上がりも遅く、3月まで安定した出荷ができる。
- ② 苗の生育そろい、株そろいにすぐれていて、定植や収穫作業が効率よく進められる。
- ① 根こぶ病に安定して強いので栽培がしやすく、収量がより安定する。

「黄づつみ90」は1月から出荷する品種として令和3年度から先行試作を行っています。以下の特性が評価され令和5年度から試験導入されました。

「黄づつみ90」の導入について

「黄づつみ90」は1月から出荷する品種として令和3年度から先行試作を行っています。以下の特性が評価され令和5年度から試験導入されました。

「黄づつみ90」は1月から出荷する品種として令和3年度から先行試作を行っています。以下の特性が評価され令和5年度から試験導入されました。



↑販売担当の本間拓也さんと共に「邑美人」の安定供給に日々奮闘中の岡島さん。

令和5年度の栽培でも安定した作柄で、上記の特徴が発揮されました。評価は上々で、増反が期待されています。ただし、べと病に関しては、初期から結束直前まで徹底した防除が必要とのことでした。また、この3年間は台風などによる植え遅れがなく、また暖冬傾向のため寒さが早く来た場合などの生育に関しては検証できていない部分もあります。

冬季の過剰生育が少ないことから現在の主力品種である「さらぼし90」と比較して3～4日程度早く播種、定植を行い、「さらぼし90」とリレーを組むことで出荷の安定を図りつつ、適期を確定していきたいとのことでした。「黄づつみ90」の導入が「邑美人」の安定生産、安定出荷の一助となれば幸いです。